

雪道を踏みしめながら、冬休みの思い出と課題を携えて児童が元気に登校しました。いつものことながら「学校中に、児童の元気な声が響くことの安心感」を実感しました。

3 学期始業式に整然と参加する児童を見て「大きくなった」「自信に溢れている」等、職員の間で感想が交わされました。話の聞き方はもちろん、入退場も並んで静かに・・・先に入場した学年は静かに体育座りをして待ちます・・・静かな中に後から入場する学年も静かに歩きます。児童の心が響き合うという瞬間を垣間見たような気がしました。児童だけではなく職員もとても清々しい気持ちで始業式に臨みました。

3 学期も児童の成長のため、学力・体力・豊かな心を伝え育みます。職員一同、誠心誠意努めますので引き続き皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

さて、冒頭のことわざについてですが、「どんなことであっても、人は好きなものに対しては熱心に努力するので、上達が早い」という意味です。誰でも好きでやっていることは一生懸命になるし、それに関して勉強したり工夫したりするので、自然に上達するものです。何事も無理して嫌だと思いながらやっても、成長はないということです。

本稿では、このことわざを思い起こさせてくれる教え子の生き方をご紹介します。

私が3・4年の担任をした☆君です。☆君は、友だち思いの優しい男の子です。運動も大好きで、休み時間になると汗だくになってグラウンド中を駆け回っていました。いつも笑顔の☆君の周りには友だちの笑顔の輪ができました。

ただ一つ☆君についての心配な事は、学習に必要な物をよく忘れることでした。担任もご家庭もあの手この手を駆使して何とか忘れ物を減らそうとしましたが、☆君が「忘れ物をしたら困る」という気持ちにはなかなか至らず困っていました。

そんな中、理科の授業で「ソーラーカー」の学習を始めました。教科書の内容と合わせて理科セットを組み立てながら授業を進めました。その日の学習の復習もするので、理科セットを持ち帰りまた理科の授業日にもってくることにしました。私は、☆君が忘れないかととても心配しましたが、この学習が終わるまで1度も忘れることはありませんでした。毎回理科セットを大切に持ってくる☆君を褒めたのはもちろんですが、忘れん坊の☆君がどうして忘れないのか不思議に思った私は、そのことを☆君に聞いてみました。すると、「だって、理科セットを忘れたらソーラーカーの実験ができないでしょ？僕、ソーラーカーの実験が大好きなんだ。だから理科のある日に○をつけて忘れないようにしているんだよ。」「みんながわからない時に、自分のソーラーカーがないと教えるのが難しいからね。」

私は愕然としながらも合点がいきました。好きな事には、夢中にする力、集中して学ぶ力、難しいことを乗り越えようと工夫する力等、多くを育てるエネルギーがあるということです。

☆君は、「ソーラーカー」の学習が終わると、いつもの「忘れん坊」に戻りましたが、この学習を通して「ソーラーカー名人」と友だちに言われるようになったことから、今までとは違う☆君に変身しました。

後日談ですが、その後☆君は、工学関係の勉強を究め、自動車関連の会社に勤めました。自動車のことなら☆君にお願いしたいという顧客がどんどん増えているようです。お客さまとの約束を忘れていたりしていまいかとの心配は全くの取り越し苦労でした。